

両親の養育態度が児童の自己教育力に及ぼす影響について

—とくに友人やきょうだいの賞賛・叱責場面について

篠原弘章・井上大介*

The Influence of Parents' Leadership Behavior upon Children's Motivation for Self-learning, Compared with the Influence of the Attitudes of Others.

Hirofumi SHINOHARA and Daisuke INOUE

(Received May 20, 1991)

The purpose of this study was to investigate the influence of parents' leadership behavior upon children's motivation for self-learning, in comparison with the approval or disapproval of siblings and friends' behaviors. The subjects were 330 school children (5th or 6th grade) in Kumamoto City. Parents' leadership was divided into four types; PM-type, P-type, M-type and pm-type, based P-M leadership theory. The main results were as follows: 1) There were many boys and girls with high motivation for self-learning under PM-type father or mother condition. 2) There were many boys and girls with low motivation under pm-type father or mother condition. 3) There were many girls with low motivation under P-type father or mother condition. 4) There were many girls with high motivation under M-type father condition. 5) There were many boys with high motivation under M-type mother condition.

Key Words : parents' leadership, self-learning, P-M theory, social comparison

問 題

1972年第17回ユネスコ総会においてフランスのフォールを代表とする教育開発国際委員会報告書「未来の学習」は、そのなかにおいて各国がとりくむべき教育の改善改革の柱の一つとして自己学習をとりあげている。そこでは「新たな教育精神は、個々人を自ら教養的な前進の主人公となし、創造者となす。自己学習とくに援助された自己学習は、いかなる教育システムにおいてかけがえのない価値を有する」という考えを原則において、「一人で行なう学習の効果は、自己学習の技能を身につけ、助けとなる多くの手段を活用することによって、大きく高まるものである」としている。梶田らは、ユネスコの教育研究所での国際研究を1977年にまとめ、各国の教育カリキュラムの検討のため5つの柱を示しているが、その中で自己教育に関する柱として、自己成長への志向と自学自習の能力という2つの柱を提出し(梶田 1985, pp.30-53), 自己成長性の志向は、自己理解, 人間存在と環境世界への関心, 達成への動機づけ, 内的な判断基準の確立, 前進的な価値観と態度の確立, パーソナリティの統合という6個の観点から評価され, 自学自習の能力については, 学習の計画・実行・評価への参加, 学習の個別化, 自学自習技能の開発, 相互学習技能の開発, 自己評価と

* 熊本県大津町新庄小学校

相互協力的評価の技能の開発という5つの観点から評価される。

また、1983年11月15日の中央教育審議会の「教育内容等小委員会審議経過報告」でも、「変化に主体的に対応できる個性的な人間の育成」にむけて、自己教育力の育成が提示された。審議経過報告では、「自己教育力とは、主体的に学ぶ意志、態度、能力など」をいうとして次の三つをあげている。第1に、自己教育力は、「学習への意欲」であるとし、「児童生徒に学習への動機を与え、学ぶことの楽しさや達成の喜びを体得させ」、「実物や本物の教育、あるいは体験的学習など学習の手段や方法」が重視される。第2に、自己教育力は、「学習の仕方の習得である」とし、「将来の日常生活や職業生活において、何をどのように学ぶかを身につけ」、「基礎的、基本的な知識・技能を学習させ、問題解決的、問題探究的な学習の方法」が必要とされる。第3に、自己教育力は、これからの「変化の激しい社会における生き方」の問題で、「自己を生涯にわたって教育し続ける意志の形成」とであるとされている。

瀬川栄志(1984, 33-38頁)は、教育現場からの発想として、自己教育力を、「価値ある目標に向かって主体的に向かっていく意欲と意志力」、「価値ある感動を積み重ね、それをバネとして自己実現を目指す」行動、「根気力、忍耐力、克己力をもって自ら律し規制し自己を高めていく」ことで、「探求的な学習方法を習得し自己を生涯にわたって教育し続ける」こと、「常に精いっぱい生きる努力を重ねながら他と協調し社会のために貢献する」行動という五つの観点からとらえている。

また、小此木啓吾(1987)は、自己教育力について、「自分で自分に対して何らかの教育的効果を与える営み」と定義し、自己教育の機能を次の4つにまとめている。第1は、日々の経験から学ぶ能力である。今までのやり方が効果をあげているときは、達成感を味わい自信を深めるが、他方、自分が失敗や挫折した時に、うまくいかなかった方法や欠点を振り返り、どこに欠点があったのか。経験をフィードバックし、自分をつくり変え軌道修正できる能力である。第2は、目的意識である(第2の機能については小此木は特別な用語を使用していないが、ここでは目的意識とした)。無目的さまよい漂う行動では、経験も有効でない。「何をやりたいのか」、「どのような人物になりたいのか」目的や長期の目標をもっていないならば、同じ経験を行なっても、自己教育にならない。第3は、「照合機能あるいは参照機能」である。例えば、先輩、教師、親、ときには読書によって、先人の教訓などを参考にして、自分の現在のあり方や経験と照合する。自分が現在やっていることが正しいかどうかの判断やその意味を、自分ひとりだけでは理解しにくいこともある。こうしたときに、教師や親または他の人々の意見を参照し、あるいは読書によって、自分のあり方を照合し検証する機能である。人間は社会的存在なので、けっして自分一人が独立して、自分をつくり上げることはできない。周囲の人々、歴史、文化と自分の考えを照合しながら、自己形成を行なっていく。こうしたプロセスにおいて自己照合あるいは人の意見の参照は重要である。第4に、こどもが、親や教師や他人からほめられ、愛され、叱られたりするなかで、教師や親のもつ態度や価値・規範を人格形成に取り入れ、自分を律し、罰したり、あるいは他人を愛し、温かく世話したりできるようになる。このような経験が、自己教育力を培う基礎として重要である。この第4の機能を小此木は特に明言していないが、本論文では自律と共感性の機能とよぶことにする。

他方、自己教育という概念を民衆の主体的な自己形成・学習としてとらえる立場からするとこの言葉の起点は大正デモクラシー期の1920年代とされている(柳沢昌一 1987, 19-77頁)。ここでは学校教育に相対する社会教育の観点から自己教育の思想史が論じられている。

以上において自己教育力についていくつかの観点についてみてきたが、本研究では自己教育を、梶田がいうような「自己統制、自己学習力、自己評価と目的意識や学習意欲らを統合し、その人独自のパーソナリティで味付けした」総括的な崇高な教育的理念ではなく、日常において人間が社会

化していく過程で身につけていく「自己をよりよくしようとする意志」として操作的に定義し、親の養育態度と児童の自己教育力との関連を検討する。篠原(1990)は、児童本人が、直接、叱られたり、ほめられたりした場面における自己教育力について検討した。本研究では、児童の周りの人(きょうだい、友だち)が、ほめられたり叱られたりする間接的な場面において、児童本人が、それをどのように自分の心の中にとり入れ、自分の糧にするのか、つまり「他山の石」として他人の行動と自己の行動を比較・参照する自己教育力について、両親の養育態度との関連で児童の自己教育力を検討する。

従来、両親の養育態度に関する研究は様々行なわれた。例えば、E. S. Schaefer (1959, 1965) の愛情－敵意・統制－自律、小嶋(1970)の愛情－統制、T. Parsons (1955)のExpressive－Instrumental、Baldwin, A. L., Kalhorn, J. & Breese, F. H. (1945) は、民主型－溺愛型－専制型－拒否型に分類した。また古川・三隅・篠原(1969)は、両親の子供に対するリーダーシップ機能の基本的な要因として親子関係を維持し、強化し、子どもに精神的安らぎを与えるための情緒的相互作用と子供が一人前の人間として社会に対応できるように、しつけ・訓練し学習を促進する社会化作用の2つの因子を見だし、三隅(1966)のリーダーシップ論から、前者(情緒的相互作用)を Maintenance Factor (略称M)、後者を Performance Factor(略称P)と命名した。P－M理論によれば、両親の養育態度は、父母それぞれ、PM型、P型、M型、pm型の4とおりに分類される。PM型の親は、子どもに対して理解があり、情緒的にも支持し、しつけ・訓練の面でも厳しい態度のとれる親である。P型の親は、しつけ・訓練の面では、きびしいが、情緒的支持や感情受容の面で、不足している親である。M型の親は、P型と逆タイプで、情緒的支持、感情受容の面では、十分だが、しつけ・訓練の面で不足している親である。pm型の親は、しつけ・訓練の面でも、情緒的支持、感情受容の面でも、両方とも不足している親である。P－M理論によれば、PM型の親が最も理想的で、pm型の親がもっとも望ましくないといえる。したがって以下のような仮説をたてることができよう。

仮説Ⅰ．PM型の養育態度を親にもつ児童の自己教育力は高いであろう。

仮説Ⅱ．pm型の養育態度を親に持つ児童の自己教育力は低いであろう。

また、P型とM型を比較した場合、P型の親は、一般に子どもにとって厳格で支配的強制的としてうけとられる。P型の親の子どもは、M型の親をもつ子どもと比べて、精神面での安らぎが不足し、ストレスが高まり、人格形成においてマイナスの影響を及ぼすと考えられる。したがって「自己をよりよくしようとする意志」にもネガティブな作用を及ぼすであろう。また、先の研究によれば、P型の親をもつ児童は自己教育力は低く、M型は高いという結果を見だしているの、さらに以下の仮説をつけ加える。

仮説Ⅲ．P型の養育態度を親にもつ児童の自己教育力は低いであろう。

仮説Ⅳ．M型の養育態度を親にもつ児童の自己教育力は高いであろう。

本研究では、以上の4つの仮説を検討する。さらに、両親の養育態度が子どもの性別との関連で自己教育力及ぼす効果についてもあわせて検討を行なう。

方 法

〈被調査者と調査期日〉 本研究の被験者は熊本市のH小学校(117名)とK学校(213名)の5, 6年生の計330名(男子171名, 女子159名)で、両親ともに健な児童である。調査は、昭和62年11月下旬から12月初旬になされた。調査にあたっては、各学級の担任教師が、質問を項目ごとに読みあげ、

その都度、児童が回答する集合調査法を用いた。

〈質門紙調査の作成〉 両親の養育行動の測定項目は、篠原・福山(1987)、篠原・森田(1983)同じ20項目を用いた。これは、しつけ・訓練に関するP項目10問と、情緒的支持、感情受容に関するM項目10問の計20問である。各項目は、父母それぞれについて、五段階尺度で構成されている。内容は、結果の因子分析の項を参照のこと。また、各項目の選択肢は、いずれも、いつも一たいていーときどきーあまりないーぜんぜんないという5段階尺度である。したがって、両親の養育行動のP、M得点は、その強度が増す方向に高得点となるように、各項目に1～5点を配分したので、その得点範囲は、P得点、M得点いずれも10～50点となる。

自己教育力に関する項目は、小学校学習指導書道徳編(文部省 1978)を参考に全32問を作成した。各項目はすべて4段階尺度である。内容は、以下の通りである。

- 1) 友だちが、テストで100点をとって、先生からほめられたとき。
- 2) 友だちが、テストで悪い点をとって、先生からしかられたとき。
- 3) 友だちが、宿題をきちんとやってきて、先生からほめられたとき。
- 4) 友だちが、宿題を忘れて、先生からしかられたとき。
- 5) 友だちが、授業中よく手をあげて発表して、先生からほめられたとき。
- 6) 友だちが、授業中さわいで、先生からしかられたとき。
- 7) 友だちが、学校のきまりをきちんと守って、先生からほめられたとき。
- 8) 友だちが、学校のきまりを守らないで、先生からしかられたとき。
- 9) 友だちが、下級生に親切にしたり、やさしくしたりして先生からほめられたとき。
- 10) 友だちが、下級生をいじめて、先生からしかられたとき。
- 11) 友だちが、そうじをまじめにがんばって、先生からほめられたとき。
- 12) 友だちが、そうじをまじめにしなかったので、先生からしかられたとき。
- 13) 友だちが、だれにも言われないのに、落ちているチリをひろって、先生からほめられたとき。
- 14) 友だちが、人から言われても、落ちているチリをひろわず、先生からしかられたとき。
- 15) 友だちが、だれもいじめず、みんなと仲よくして、先生からほめられたとき。
- 16) 友だちが、ケンカやいじめをして、先生から、しかられたとき。
- 17) 兄(弟、姉、妹)が、部屋をきれいにして、家の人からほめられたとき。
- 18) 兄(弟、姉、妹)が、部屋をちらかして、家の人からしかられたとき。
- 19) 兄(弟、姉、妹)が、家の手伝いをして、家の人からほめられたとき。
- 20) 兄(弟、姉、妹)が、家の手伝いもせず、家の人からしかられたとき。
- 21) 兄(弟、姉、妹)が、あいさつがよいと家の人からほめられた。
- 22) 兄(弟、姉、妹)が、あいさつが悪いと家の人からしかられたとき。
- 23) 兄(弟、姉、妹)が、早寝、早起きをして、家の人からほめられたとき。
- 24) 兄(弟、姉、妹)が、寝る時間や起きる時間がおそくて、家のひとからしかられたとき。
- 25) 兄(弟、姉、妹)が、食べものの後かたづけをして、家の人からほめられたとき。
- 26) 兄(弟、姉、妹)が、食事のあと後片づけもせず食べたままにして、家の人からしかられたとき。
- 27) 兄(弟、姉、妹)が、むだづかいをせずに貯金して、家の人からほめられたとき。
- 28) 兄(弟、姉、妹)が、むだづかいをして家の人からしかられたとき。
- 29) 兄(弟、姉、妹)が、良い成績をとって家の人からほめられたとき。
- 30) 兄(弟、姉、妹)が、悪い成績をとって家の人からしかられたとき。

- 31) 兄(弟, 姉, 妹)が, 人から言われなくても, 勉強して, 家の人からほめられたとき.
 32) 兄(弟, 姉, 妹)が, テレビばかりみて人から言われないと勉強しないので, 家の人からしかられたとき.

また, 自己教育力項目についての選択肢は, 各項目とも 4 段階(4. 自分もほめられるようにしよう, 4. しかられないようにしよう, 3. ほめられて当然だ, 3. しかられて当然だ あるいは 2. 自分のことではないので何とも思わない, 1. そのくらいでほめるのはおかしい, 1. しかるのはおかしい)の尺度を設けた.

結 果

<両親の養育態度項目の因子分析>

父親の養育行動の測定の妥当性をみるために, 因子分析をおこなった. まず, 20項目間のピアソンの積率相関係数を求め, この相関行列の対角線上のセルに共通性の推定値として各行の相関の絶対値の最大値を入れ, 直接バリマックス法によって直交因子を第 4 因子まで抽出した(Table 1-1). Table 1-1 においては, 因子負荷量が絶対値. 400以上のものをゴシック体で示した. 表からわかるように, 第 I 因子に高い負荷を示す項目は 10 項目(Q 13, Q 15, Q 16, Q 20, Q 14, Q 17, Q 12, Q 18, Q 11, Q 19 の順)あり, 第 II 因子にも 10 項目(Q 5, Q 6, Q 3, Q 10, Q 2, Q 4, Q 1, Q 9, Q 7, Q 8 の順)が高く負荷している. 第 I 因子に高い負荷量を示す項目は, M 項目としてあらかじめ設定しておいた 10 項目のすべての項目である. また, 第 II 因子にも P 項目としてあらかじめ設定しておいたすべての項目が高く負荷している. 項目 11 の「けがや病気をしないようにいう」という項目は, 第 I と第 II 因子の双方に負荷しているが, P, M 項目としての設定は, きわめて妥当であったといえる.

母親の養育行動の 20 項目についても父親の場合と同じ手続きで因子分析を行なった. Table 1-2 に, 直接バリマックス法による因子を第 4 因子まで示した. 母親の養育行動の第 I 因子に高い負荷量を示した項目は, Q 13, Q 15, Q 14, Q 12, Q 16, Q 20, Q 17, Q 11, Q 18, Q 19 の 10 項目で, あらかじめ M 項目として設定した 10 項目すべてである. したがって, 母親の養育行動の M 次元測定項目としての設定が妥当であったといえる. 第 II 因子に高く負荷した項目は, Q 2, Q 4, Q 3, Q 6, Q 1, Q 7, Q 10 の順で, これらの 7 項目は, P 項目としてあらかじめ設定しておいた項目である. また, 第 III 因子に高い負荷量を示す項目は, Q 9 おこづかいやお金の使い方についてやかましく言う(.461), Q 8 将来, 立派な人間になるように言う(.360)の 2 項目である. 第 IV 因子には, Q 5 あなたが, 何をすべきか指図する, の項目だけが強く負荷した. この Q 5 の項目は, 第 IV 因子と第 II 因子にまたがって負荷した(.370). したがって, 母親の P 次元の行動は, 3 つの因子から成っていると見なされ, その内容はこどもの規律や統制に関わる因子をもった行動としてまとめることができる. 以上の結果から, 母親の養育行動の測定項目のうち P 項目は, 3 因子にわかれるが, 項目の設定は, ほぼ妥当であったといえる.

Table 1-1 父親の養育行動の直接バリマックス法による因子分析結果

項目の主旨	因 子				共通性 h ²
	I	II	III	IV	
13 何か失敗したとき、元気づけてくれる	.727	.094	.228	.263	.658
15 気持ちを大事にしてくれる	.720	-.018	.043	-.031	.521
16 こどもの見方を理解しようとする	.719	.051	.030	-.125	.536
20 家庭を明るくしようとする	.716	.101	-.127	-.119	.553
14 意見や考えを気軽にきく	.667	.046	.054	.075	.469
17 よいことをしたときほめてくれる	.673	.091	.059	-.307	.560
12 悩みや心配ごとを聞いてくれる	.667	.219	.025	.347	.613
18 夕食後など楽しい話をしてくれる	.624	.135	-.096	-.067	.421
11 けがや病気をしないように気をつける	.565	.565	.214	-.036	.380
19 勉強や遊びの相手になってくれる	.550	.117	-.009	-.052	.319
5 何をすべきか指図する	.051	.635	-.136	.026	.425
6 それをやるまでやかましくいう	.000	.632	-.055	.017	.403
3 悪いことをしたときは叱る	.102	.596	.147	.025	.388
10 家の中であばれないようにいう	.039	.586	-.130	-.098	.371
2 礼儀やきまりを守るようにいう	.324	.502	.148	.092	.388
4 目上の人のいうことを聞くように言う	.237	.480	.178	.048	.320
1 家の手伝いをするようにいう	.175	.455	.059	.052	.244
9 お金の使い方をやかましくいう	.049	.431	.359	-.169	.346
7 ひとりでやってみるようにいう	.186	.401	.388	.083	.353
8 将来、立派な人間になるようにいう	.254	.400	.261	.084	.300
因子分散	4.750	2.856	0.554	0.410	8.570
寄与率	23.8	14.3	2.8	2.0	42.9

Table 1-2 母親の養育行動の直接バリマックス法による因子分析結果

項目の主旨	因 子				共通性 h ²
	I	II	III	IV	
13 何か失敗したとき、元気づけてくれる	.756	.037	-.013	.075	.579
15 気持ちを大事にしてくれる	.743	-.012	-.031	-.037	.558
14 意見や考えを聞いてくれる	.668	.194	-.092	-.088	.500
12 悩みや心配事をきいてくれる	.653	.154	.160	-.091	.483
16 どんな見方かを理解しようとする	.623	.109	-.067	.123	.420
20 家庭を明るくしようとする	.616	.028	.067	-.054	.387
17 よいことをしたとき、ほめる	.610	.018	.138	-.024	.392
11 けがや病気をしないように気をつける	.569	.097	.184	.237	.423
18 夕食後、楽しい話をしてくれる	.558	.154	-.092	-.169	.372
19 勉強や遊びの相手になってくれる	.509	.102	.048	-.005	.272
2 礼儀やきまりを守るようにいう	.261	.648	.000	-.104	.500
4 目上の人のいうこと聞くようにいう	.227	.606	-.109	.016	.430
3 悪いことをしたときは叱る	.095	.571	.081	-.099	.351
6 それをやるまでやかましくいう	-.027	.554	.101	.295	.405
1 家の手伝いをするようにいう	.070	.508	-.012	-.020	.263
7 一人でするようにいう	.183	.426	.087	-.093	.231
10 家の中であばれないようにいう	.007	.409	.334	-.063	.283
9 お金の使い方をやかましくいう	.044	.232	.461	-.017	.269
8 将来、立派な人間になるようにいう	.304	.266	.360	-.031	.294
5 なにをなすべきか指図する	-.013	.370	.273	.396	.369
因子分散	4.292	2.408	0.673	0.409	7.782
寄与率	21.5	12.0	3.4	2.0	38.9

Table 2 性別と両親の養育類型についての尤度比検定
(要因A, B, Cの固定モデル)

変動源	χ^2_L	df	p
性別(A)× 父のタイプ(B)	0.810	3	ns.
性別(A)× 母のタイプ(C)	15.881	3	<.01
父のタイプ(B)× 母のタイプ(C)	227.151	9	<.01
(A)×(B)×(C)	17.187	9	<.05
全体	261.029	24	<.01

Table 3 性別と両親の養育類型の諸集計の尤度比検定および残差分析

変動源	養育類型				調整後の残差				尤度比值
	PM	P	M	pm					
3.1 性別×父親									
男子	51	30	40	50	-0.69	0.60	-0.24	0.44	$\chi^2_L=0.810$
女子	53	24	39	43	0.69	-0.60	0.24	-0.44	df=3, ns.
3.2 性別×母親									
男子	52	31	33	55	-2.33*	1.92	-1.92	2.90**	$\chi^2_L=15.881$
女子	68	17	45	29	2.33*	-1.92	1.92	-2.90**	df=3, p<.01
3.4 父×母の類型									
PM	80	7	15	2	10.39**	-2.73**	-2.67**	-6.66**	$\chi^2_L=227.151$
P	16	21	3	14	-1.13	5.55**	-3.42**	0.09	df=9
M	16	7	47	9	-3.41**	-1.64	8.60**	-3.29**	p<.01
pm	8	13	13	59	-6.57**	-0.18	-2.59**	9.92**	
3.5 性別×父×母									
男	PM	39	6	6	0	5.43**	-0.75	-2.23*	$\chi^2_L=17.187$
	P	6	14	0	10	-1.53	5.37**	-2.79**	df=9
	M	6	5	23	6	-2.77**	-0.44	4.93**	p<.05
	pm	1	6	4	39	-4.83**	-0.43	-2.56*	8.97**
女	PM	41	1	9	2	6.53**	-2.64**	-0.97	-3.54**
	P	10	7	3	4	0.20	1.79	-1.41	-1.14
	M	10	2	24	3	-1.23	-1.67	5.70**	-2.47*
	pm	7	7	9	20	-2.78**	0.21	-0.57	2.96**
計	120	48	78	84					

＜両親の養育態度の類型化＞

ここで、両親の養育行動の類型化を行なう。養育類型は、被験者ごとにP項目10問(Q1～Q10)とM項目10問(Q11～Q20)の合計点を、父親、母親別に算出した。父親のP得点とM得点の全体平均は、それぞれ30.16($SD=7.17$)と36.68($SD=8.58$)であった。同様に母親のP、M得点の全体平均はそれぞれ33.60($SD=6.43$)と38.95($SD=7.62$)であった。これらの平均より高いか低いかによって、P、Mともに高い類型をPM型、P得点のみ高い場合をP型、M得点のみ高い場合をM型、P、Mともに低い場合をpm型と類型化した。したがって、父親と母親いずれも4類型に分類されるので、両親を組み合わせた類型は16類型に分類される。これらの養育類型と性別との関連を検討したものがTable 2, Table 3である。

モデル4による3要因の尤度比検定(Table 2)の結果、父親の類型×性別のみが有意でなく、他はすべて有意な連関が見い出された。Table 3-1～Table 3-5は、これらの有意な連関の内容をみるためのものである。Table 3.2から、母親では男子より女子にPM型が多く、pm型は男子に有意に多い($\chi^2_{(1)}=15.881, p<.01$)。また、統計的には有意でないが男子に厳しいP型が多い傾向がみられる。逆にいうと、母親は女子に対して甘い傾向がみられる。

また、両親の類型の間では(Table 3.4)、父母ともに同じタイプの組み合わせが、有意に多い($\chi^2_{(1)}=227.151, p<.01$)。すなわち、父と母の組み合わせは、PM-PM型24.2%、P-P型6.4%、M-M型14.2%、pm-pm型17.9%で、計62.7%となる。これは、家庭内において両親の間に子どもに対してしつけの整合性を保とうとする傾向があるために父母ともに同じタイプが多いものと解釈される。

性別×父×母の類型(Table 3.5)では、男子については父母いずれも同じ類型で接するタイプが多い。他方、女子についてはPM-PM型、M-M型、pm-pm型で多く接しても、両親がともに厳しいP-P型はとくに少ない点特徴的である($\chi^2_{(1)}=17.187, p<.05$)。

＜自己教育力項目の因子分析＞

自己教育力全32項目(Q21～Q52)の因子的妥当性の検討をおこなった。手続きは、両親の養育行動の因子分析と同様に、直接バリマックス法を用いた。相関行列の対角線部分の共通性の推定値には各行の相関の絶対値最大を用いた。

第6因子までの因子負荷量をTable 4に示した。表では因子負荷量の絶対値.500以上のものをゴシック体で示した。

第Ⅰ因子に高い負荷量を示した項目は、8項目であった。内容は、きょうだいQ41挨拶、Q39手伝い、Q51勉強、Q45食後のかたづけ、Q37部屋の掃除、Q43早寝早起き、Q47無駄使いをせず、Q49良い成績をほめられたときと、すべてきょうだいがほめられた場合の項目になっている。よってこの第Ⅰ因子を「正のきょうだいモデルの因子」と名づける。

第Ⅱ因子に高い負荷量を示した項目は、友だちが、Q26授業中さわい、Q24宿題を忘れて、Q22テストが悪くて、Q28きまりを守らず、Q32掃除をせず、Q30下級性をいじめて叱られたとき、という6項目と、Q25授業中よく発表してほめられたときという1項目の計7項目である。これらはすべて、友だち場面になっているので、この第Ⅱ因子を「友人モデルの因子」と名づける。

最後に、第Ⅲ因子に高く負荷した項目は、きょうだいQ46食事の後かたづけをせず、Q42あいさつが悪くて、Q40手伝いをせず、Q52勉強をせず、Q48無駄使いをして叱られたときという5項目である。これらは、すべてきょうだいが叱られた場面であるので、この第Ⅲ因子を「負のきょうだいモデルの因子」と名づける。

次に、上にのべた各因子に高い因子負荷を示した項目のみを用いて要因得点を算出して、3つの

Table 4 自己教育力32項目のバリマックス回転後の因子

項目の主旨	因子負荷量						共通性 h ²
	I	II	III	IV	V	VI	
41 兄弟が挨拶をほめたとき	.744	-.016	.082	.110	-.069	.042	.579
39 " 家の手伝いを "	.720	.134	.096	.076	-.202	.050	.595
51 " 勉強を "	.683	.237	.054	-.032	.105	.003	.538
45 " 食後の後かたづけを "	.664	.204	.109	.072	-.072	-.037	.507
37 " 部屋をきれいにして "	.661	.156	.113	-.055	.098	-.047	.490
43 " 早寝, 早起きを "	.651	.150	.113	.033	.112	.052	.476
47 " 無駄使いをせずに "	.645	.226	.113	-.041	.171	.014	.512
49 " 良い成績を "	.541	.107	.249	.013	-.139	.054	.388
35 友だちが皆と仲良くしてほめられたとき	.467	.177	.119	.230	.039	.237	.374
26 友だちが授業中さわいで叱られたとき	.191	.726	-.025	-.046	-.063	.053	.574
24 " 宿題を忘れて "	.284	.723	-.031	-.069	.030	-.094	.619
22 " テストが悪くて "	.222	.677	.088	-.109	.038	.036	.529
28 " きまりを守らず "	.136	.642	.263	.160	-.070	-.032	.531
32 " 掃除をせず "	.120	.556	.260	.153	-.144	.216	.481
25 友だちが発表してほめられたとき	.388	.545	.019	.234	.247	-.039	.565
30 " 下級生をいじめて叱られたとき	.164	.529	.284	.195	.111	.104	.448
37 兄弟が部屋をきれいにしてほめられたとき	.438	.441	.040	.391	.334	-.026	.653
21 友だちが 100点をとってほめられたとき	.344	.367	.001	.289	.035	-.186	.373
46 兄弟が後かたづけをせず叱られたとき	.294	.147	.639	.044	.046	-.045	.522
42 " 挨拶が悪くて "	.332	.155	.634	.002	-.082	-.057	.546
40 " 手伝いをせず "	.348	.179	.624	.020	.025	.018	.644
52 " 勉強せず "	.326	.299	.549	.004	.007	.069	.502
48 " 無駄使いをして "	.400	.271	.508	.049	.008	-.011	.493
44 " 寝起きが遅くて "	.395	.208	.469	.026	.002	.009	.420
34 友達がチリをひろわず叱られたとき	.146	.334	.423	.132	.015	.322	.433
50 兄弟が悪い成績をとって叱られたとき	.222	.367	.409	-.126	.042	.210	.413
38 " 部屋をちらかして "	.307	.228	.394	-.020	-.026	-.002	.303
29 友達が下級生に親切にしてほめられたとき	.405	.168	.164	.546	-.015	.133	.530
31 " 掃除を先生からほめられたとき	.359	.340	.098	.521	.072	-.114	.544
33 " チリをひろってほめられたとき	.364	.277	.020	.432	-.145	-.015	.409
23 " 宿題を先生からほめられたとき	.433	.409	-.012	.225	.473	.015	.628
36 " ケンカをして先生から叱られたとき	.229	.310	.238	.204	.007	.409	.414
因子分散	6.03	4.46	2.94	1.36	0.61	0.54	15.92
寄与率 (%)	10.8	13.9	9.2	4.2	1.9	1.7	49.8

Table 5 性別による自己教育力項目の分布 (%)

項目の主旨 カテゴリー	男子 (N=171)				女子 (N=159)				χ^2 検定 (df=3)
	1	2	3	4	1	2	3	4	
Q21 友達が 100点をとってほめられた	11.7	18.7	29.8	39.8	6.3	11.3	26.4	56.0	10.624*
Q22 " 悪い点を叱られた	29.8	9.9	10.5	49.7	28.9	6.3	11.3	53.5	1.657
Q23 " 宿題をほめられた	32.7	17.5	26.3	23.4	23.9	10.7	38.4	27.0	9.208*
Q24 " 宿題を忘れて叱られた	19.3	8.2	24.6	48.0	13.8	5.7	29.6	50.9	3.161
Q25 " 発表をほめられた	21.1	18.7	26.3	33.9	15.7	7.5	31.4	45.3	12.765**
Q26 " 騒いで叱られた	11.7	6.4	41.5	40.4	6.9	6.3	42.1	44.7	2.407
Q27 " きまりを守ってほめられた	24.0	14.0	36.3	25.7	16.4	6.9	40.3	36.5	9.856*
Q28 " きまりを守らず叱られた	7.0	10.5	36.8	45.6	8.8	4.4	37.7	49.1	4.800
Q29 " 親切にしてほめられた	7.0	15.2	44.4	33.3	4.4	10.1	48.4	37.1	3.340
Q30 " いじめをして叱られた	1.8	7.0	56.7	34.5	0.6	6.3	56.6	36.5	1.063
Q31 " 掃除をほめられた	11.1	16.4	38.6	33.9	10.1	6.9	45.9	37.1	7.848*
Q32 " 掃除をせず叱られた	5.3	10.5	43.9	40.4	1.3	5.7	51.6	41.5	7.819
Q33 " チリを拾ってほめられた	9.9	9.4	49.7	31.0	6.3	7.5	52.2	34.0	2.006
Q34 " チリを拾わず叱られた	14.6	10.5	45.6	29.2	14.5	8.8	40.3	36.5	2.124
Q35 " 皆と仲良くしてほめられた	32.2	11.1	35.7	21.1	23.9	5.7	39.6	30.8	8.368*
Q36 " ケンカをして叱られた	6.4	11.1	58.5	24.0	6.3	5.7	57.9	30.2	4.147
Q37 兄弟が部屋をきれいにしてほめられた	19.3	19.9	28.7	32.2	17.0	21.4	28.3	33.3	0.372
Q38 " 部屋をちらかして叱られた	7.0	14.6	43.9	34.5	8.8	15.7	44.7	30.8	0.754
Q39 " 手伝いをしてほめられた	10.5	17.5	35.7	36.3	11.3	14.5	36.5	37.7	0.599
Q40 " 手伝いをせず叱られた	13.5	15.8	45.6	25.1	14.5	13.2	44.7	27.7	0.656
Q41 " 挨拶をほめられた	16.4	19.9	32.7	31.0	17.6	13.2	35.0	33.3	2.674
Q42 " 挨拶が悪いと叱られた	15.2	16.4	33.3	35.1	17.0	11.3	41.5	30.2	3.769
Q43 " 早寝早起きをほめられた	24.5	16.4	26.9	22.2	29.6	18.2	24.5	27.7	1.959
Q44 " 寝起きの時間を叱られた	17.5	21.1	39.8	21.6	16.4	15.1	40.3	28.3	3.169
Q45 " 食後のかたづけをほめられた	22.2	14.6	31.0	32.2	21.4	10.7	35.2	32.7	1.486
Q46 " 食後のかたづけを叱られた	12.3	16.4	42.7	28.7	12.6	13.2	44.7	29.6	0.661
Q47 " 貯金をしてほめられた	24.0	17.0	28.1	31.0	20.1	15.1	37.1	27.7	3.117
Q48 " 無駄使をして叱られた	6.4	17.0	41.5	35.1	11.3	13.8	42.8	32.1	3.027
Q49 " 良い成績をほめられた	2.9	14.6	36.3	46.2	5.7	9.4	35.2	49.7	3.554
Q50 " 悪い成績を叱られた	24.6	11.7	28.7	35.1	27.0	13.2	22.0	37.7	1.944
Q51 " 勉強をしてほめられた	24.6	16.2	24.0	35.1	27.7	10.7	25.8	35.8	2.403
Q52 " テレビを見て叱られた	7.0	15.2	46.2	31.6	11.3	10.7	43.4	34.6	3.355

* $p < .05$, ** $p < .01$

Table 6-1 父の養育類型と子どもの3つの自己教育力要因の平均値 (標準偏差)

父の類型	PM	P	M	p m	F-Ratio	Tukey 法の検定
1 正の兄弟モデルの要因	24.06(6.29)	22.61(5.36)	22.22(6.17)	20.65(6.37)	5.030**	PM>pm
2 友人モデルの要因	22.99(4.59)	20.78(4.81)	22.34(4.48)	20.47(5.29)	5.563**	PM>P>pm;M>pm
3 負の兄弟モデルの要因	16.06(3.36)	14.89(2.97)	14.22(3.52)	13.23(4.07)	10.656**	PM>M>pm;P>pm

(注 分子の自由度=3, 分母の自由度=326 ** $p < .01$)

Table 6-2 母の養育類型と子どもの3つの自己教育力要因の平均値 (標準偏差)

母父の類型	PM	P	M	p m	F-Ratio	Tukey 法の検定
1 正の兄弟モデルの要因	24.46(5.79)	21.04(5.86)	22.22(6.56)	20.48(6.21)	8.055**	PM>M>P>pm
2 友人モデルの要因	23.14(4.51)	20.83(5.31)	22.32(4.74)	19.81(4.69)	9.022**	PM>P>pm;M>pm
3 負の兄弟モデルの要因	15.78(3.43)	13.73(3.25)	14.73(3.77)	13.38(3.74)	8.440**	PM>P>pm

(注 分子の自由度=3, 分母の自由度=326 ** $p < .01$)

因子の要因間の相関係数を算出した。その結果、第Ⅰ因子の要因得点(正のきょうだいモデルの因子)と第Ⅲ因子の要因得点(負のきょうだいモデルの因子)との間の相関は、0.570と高く、両要因は、共通な部分が多いことがわかる。これは、第Ⅰ、第Ⅲ因子の要因が、いずれもきょうだいの行動場面であるために互いに相関をもっているのであろう。一方、第Ⅰ因子と第Ⅱ因子の要因得点(友人モデルの因子)との相関は、0.496と比較的低く、第Ⅱ因子と第Ⅲ因子の要因得点との相関も0.479と低い。これらのことから、第Ⅰ因子と第Ⅱ因子、第Ⅱ因子と第Ⅲ因子は、比較的独立したものであり、第Ⅰ因子と第Ⅲ因子が、類似したものであるといえる。つまり、兄弟姉妹が、父母からほめられたり、しかられたりする場面はいずれの場面もこどもの自己教育力を高め、学校場面では、友人が先生からほめられたり、叱られたりする場面で相互の自己教育力の相関が高いことを示している。

第Ⅳ因子以下についての因子の寄与率は、第Ⅰ、第Ⅱ、第Ⅲ因子と比べるとかなり低く、.500以上という高い因子負荷量を示す項目が少ないので、因子の解釈はさける。

<自己教育力項目の一般的傾向>

Table 5 は、自己教育力32項目の性別による度数分布である。尤度比検定で有意な性差がみられた項目は、6項目のみであった。これらの項目では、いずれも女子が男子よりも自己教育力が高い。すなわち、友だちが、Q21テストで100点をとって($\chi^2_{(1)}=10.624, p<.05$)、Q23宿題を($\chi^2_{(1)}=9.208, p<.05$)、Q25授業中に発表して($\chi^2_{(1)}=12.765, p<.01$)、Q27学校のきまりを守って($\chi^2_{(1)}=9.856, p<.05$)、Q31友達が掃除を頑張って($\chi^2_{(1)}=7.848, p<.05$)、Q35みんなと仲よくして($\chi^2_{(1)}=8.368, p<.05$)、先生からほめられたときという6項目では、女子が男子よりも、友人がほめられることで自己教育力が高められることを示している。これは、女子の親和性や先生からの承認への欲求が男子より高いことを意味することからくるのかも知れない。

<両親の養育態度と従属変数としての自己教育力との関連性について>

(1) 父母の養育類型と自己教育力の要因得点との関係

まず、3個の自己教育力の要因得点についてみる。第Ⅰ因子(正のきょうだいモデル)は、8項目なので、要因得点の範囲は、8点～32点となる。同様に第Ⅱ因子(友人モデル)は7項目なので、7点～28点、第Ⅲ因子(負のきょうだいモデル)は、5項目なので、5点～20点の範囲となる。Table 6-1, Table 6-2 は、両親の養育類型と自己教育力の3個の要因得点の平均と1要因分散分析およびTukey法による平均対の検定結果である。

Table 6-1 では、父親での3つの要因すべてに1%水準で有意差がみられた。Tukey法による平均対の多重比較の結果、すべての要因で、PM型の父親の平均値が、もっとも高く、pm型がもっとも低い。すなわち、第Ⅰ因子の要因では、PM型>pm型、第Ⅱ因子ではPM型>P型>pm型、M型>pm型、第Ⅲ因子ではPM型>M型>pm型、P型>pm型という関係で統計的に有意に高かった。またP型とM型に関しては、第Ⅰ因子、第Ⅲ因子の要因ではP型が、M型より高いが、第Ⅱ因子では、逆にM型>P型という関係である。要約するとPM型>pm型という関係がみられる。

Table 6-2 では、各因子の要因得点を母親の養育類型の間で検討したもので、結果は、3つの要因すべてに有意差がみられた。

Table 6-2 によれば、平均値は、すべての因子でPM型の母親がもっとも高く、pm型の母親が、もっとも低い。Tukey法による多重比較でもPM>M>P>pm(第Ⅰ因子)、PM>P>pm、M>pm(第Ⅱ因子)、PM>P>pm(第Ⅲ因子)という関係が統計的に有意に見られた。また、P型とM型を比較すると父親の場合と異なって、母親の場合すべての要因においてM型の母親が、P型の母親よりも高い得点を示した。

(2) 項目ごとの父親の類型×性別の2要因分散分析の結果

Table 7 は、自己教育力項目についての性別×父の類型間の2要因分散分析の結果である。

項目の平均値は、男女ともほとんどの項目においてPM型が最上位を示し、pm型が最下位を示した。父親の養育類型の間で、14項目(Q25, 26, 29, 30, 36, 37, 38, 40, 42, 44, 46, 49, 51, 52)について有意な F 値が得られた。Tukey法による平均対の多重比較の結果、Q49きょうだいが良い成績をとって、ほめられたとき以外の項目ではすべて、PM型の父親の下で、平均値が有意に最高点を示した。PM型>pm型という関係が14項目のすべてで有意に得られた。また、P型とM型の平均値を比較してみると、数字の上でM型>P型となる項目は、Q21, 22, 24, 25, 26, 30, 37の7項目である。一方、P型>M型という方向を示す項目は、Q29, 36, 38, 40, 41, 42, 44, 46, 49, 51, 52の11項目である。前者(M型>P型)に関しては、Q37を除くとすべて友だち場面である。しかし後者(P型>M型)に関しては、Q29, Q36を除くと、きょうだい場面の項目である。つまり、友だち場面においては、M型>P型が多く、きょうだい場面においては、P型>M型となる項目が多い。このことは、前述の因子ごとの要因得点の方向とも一致している(Table 6-1)。

また、性別で有意差がみられた項目は、Q21, 23, 25, 27, 35の5項目である。ここではQ30に有意差が見られなかったことを除くと、Table 5の尤度比検定の結果とも一致して、女子において自己教育力が高い。性別×父の類型では、女子において、P型の父親の下で自己教育力が低い傾向が見られる。PM型では、男女とも自己教育力が高いといえる。

以上の父親の類型と児童の自己教育力についての結果をまとめると、次のようになる。

1. PM型のもとでは、自己教育力は高く、pm型のもとでは、自己教育力は低い。
2. きょうだい場面(家庭)においては、P型がM型より自己教育力が高い傾向にある。
3. 友人場面(学校)においては、M型がP型より自己教育力が高い傾向にある。
4. 女子においては、P型のもとでは、自己教育力は低い傾向にある。

(3) 項目ごとの母親の類型×性別の2要因分散分析の結果

Table 8 は、自己教育力32項目ごとに性別×母親の類型についての2要因分散分析とTukey法による平均値の多重比較の結果を示したものである。

男女ともほとんどの項目において、PM型で最も高い平均値を示し、pm型が最も低かった。これは父親の場合と同様である。母親の類型間では、Q38, Q45, Q50をのぞく29項目で有意な F 値が見られた。Tukey法による多重比較では、PM型>pm型となるケースは20項目で有意であった。また、有意にP型が最下位となるケースは9項目みられた。これは、父親の場合ではほとんどの項目でpm型が最小を示したこととは異なる点である。つまり、母親の場合、情緒的支持(やさしさ、愛情など)の不足している母親のもとでは、その児童の自己教育力は、低いといえる。

P型とM型の比較では、有意にP型>M型となるケースは4項目見られたが、M型>P型というケースは皆無であった。

以上のことから、母親では、しつけ、訓練面によるきびしさより、精神的な安らぎといった情緒的な支えが中心となっているといえよう。

さらに、男女別について、4つの母親の類型の下での平均値をみると、女子においては、P型の母親のもとで、自己教育力が低い傾向にあり、PM型では男女に差がなく両性とも高い。また、M型のもとでも男女とも自己教育力が高い傾向にある。

以上の母親の類型と児童の自己教育力についての結果は、次のようにまとめられる。

1. 自己教育力は、PM型のもとで高く、pm型のもとでは低い。

Table 7 父のタイプと自己教育力32項目の平均値と2要因分散分析

項目の主旨	類型 (人数)	男 子				女 子				性別 (A)	F 比 類型 (B)	A × B	Tukey 法による 平均値間の対比較 (類型間)
		PM (51)	P (30)	M (40)	p.m (50)	PM (53)	P (24)	M (39)	p.m (43)				
Q21 友達が 100点をとってほめられた時		3.24	2.87	3.12	2.68	3.50	3.13	3.18	3.13	7.59**	2.57 ⁺	1.17	
Q22 " 悪い点をとって叱られた時		3.00	2.70	2.90	2.60	3.07	2.58	3.08	2.64	0.08	2.17 ⁺	0.17	
Q23 " 宿題をやってほめられた時		2.55	2.23	2.68	2.14	2.74	2.67	2.71	2.60	4.63*	1.42	0.63	
Q24 " 宿題を忘れて叱られた時		3.18	2.80	3.32	2.74	3.24	3.00	3.24	3.12	1.25	2.37 ⁺	0.62	
Q25 " 授業中頑張ってほめられた時		3.18	2.50	2.90	2.30	3.11	2.75	3.13	3.10	5.97*	4.04**	2.14 ⁺	PM>pm>P
Q26 " 授業中さきわいで叱られた時		3.55	2.90	3.10	2.78	3.28	3.08	3.34	3.21	2.02	4.00**	2.11 ⁺	PM>P>pm
Q27 " きまりを守ってほめられた時		2.88	2.63	2.66	2.40	3.13	3.04	2.79	2.86	6.47*	1.72	0.38	
Q28 " きまりを守らず叱られた時		3.29	3.30	3.17	3.12	3.41	3.08	3.42	3.05	0.04	1.31	1.02	
Q29 " 下級生に優しくしほめられた時		3.27	3.10	3.07	2.76	3.33	3.21	3.05	3.07	1.49	2.96*	0.56	PM>pm
Q30 " 下級生をいじめて叱られた時		3.39	3.33	3.20	3.06	3.44	3.00	3.37	3.19	0.01	3.37*	2.58	PM>pm
Q31 " 掃除を頑張ってほめられた時		3.02	3.17	2.98	2.76	3.31	2.96	2.95	3.02	0.52	1.24	1.25	
Q32 " 掃除をせずに叱られた時		3.22	3.40	3.22	3.04	3.46	3.08	3.34	3.29	0.74	0.75	2.52	
Q33 " チリをひろってほめられた時		3.20	3.13	3.10	2.72	3.19	2.96	3.24	3.07	0.64	2.02	1.31	
Q34 " チリもひろわず叱られた時		3.12	2.70	2.85	2.84	3.13	2.92	3.08	2.74	0.62	1.87	0.51	
Q35 " いじめもせずほめられた時		2.47	2.33	2.59	2.44	3.11	2.83	2.53	2.50	4.86*	1.10	1.71	
Q36 " けんかをして叱られた時		3.14	3.10	2.78	2.98	3.20	2.92	3.18	3.07	0.54	5.06**	8.64**	PM>pm>M
Q37 兄弟が部屋をきれいにしほめられた時		3.06	2.50	2.78	2.54	2.94	2.54	2.97	2.50	0.04	4.14**	0.24	PM>P>pm
Q38 " 部屋をちらし叱られた時		3.29	3.00	3.00	2.90	3.33	3.03	2.79	2.64	0.97	5.44**	0.65	PM>M>pm
Q39 " 手伝いをしほめられた時		3.10	3.17	2.80	2.90	3.28	2.83	2.87	2.86	0.16	1.75	0.88	
Q40 " 手伝いをせず叱られた時		3.00	2.87	2.71	2.72	3.24	2.83	2.79	2.43	0.00	4.42**	1.06	PM>P>pm
Q41 " あいさつをほめられた時		2.92	3.00	2.73	2.58	3.17	2.67	2.74	2.62	0.00	2.42 ⁺	0.99	
Q42 " あいさつを悪いと叱られた時		3.14	3.17	2.71	2.60	3.20	2.79	2.87	2.40	0.60	6.06**	1.12	PM>M>pm;P>pm
Q43 " 早寝早起きをほめられた時		2.67	2.23	2.37	2.16	2.67	2.67	2.34	2.33	1.18	1.82	0.65	
Q44 " 寝起きの時間を叱られた時		2.96	2.63	2.56	2.44	3.13	2.96	2.58	2.50	3.22 ⁺	4.49**	1.11	PM>M>pm
Q45 " 後かたづけをほめられた時		2.78	2.97	2.83	2.48	2.98	2.58	2.95	2.57	0.00	1.75	1.09	
Q46 " 後かたづけを叱られた時		3.25	2.87	2.73	2.62	3.15	2.92	2.76	2.74	0.05	4.61**	0.18	PM>M>pm
Q47 " 貯金をほめられた時		2.86	2.67	2.66	2.48	2.91	2.58	2.63	2.62	0.02	1.30	0.15	
Q48 " 無駄使いを叱られた時		3.22	3.17	2.95	2.90	3.15	2.79	3.03	2.74	1.62	2.07	0.86	
Q49 " 良い成績をほめられた時		3.41	3.57	3.22	2.96	3.43	3.42	3.08	3.21	0.00	4.60**	1.00	P,PM>pm
Q50 " 悪い成績をしかられた時		2.82	2.70	2.78	2.68	3.00	2.58	2.63	2.43	0.39	1.22	0.46	
Q51 " 勉強をほめられた時		2.92	2.90	2.90	2.20	2.83	2.83	2.55	2.55	0.09	2.98*	1.15	PM,P>pm
Q52 " 勉強をせず叱られた時		3.24	3.23	2.90	2.80	3.33	3.04	3.00	2.57	0.83	6.58**	0.77	PM>M>pm;P>pm

** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$

Table 8 母のタイプと自己教育力32項目の平均値と2要因分散分析

項目の主旨	類型 (人数)	男 子				女 子				性別 (A)	F 比 類型 (B)	A × B	Tukey 法による 平均値間の対比較 (類型間)
		PM (53)	P (31)	M (33)	p.m (55)	PM (68)	P (17)	M (45)	p.m (28)				
Q21 友達が 100点をとってほめられた時		3.26	3.13	3.00	2.62	3.43	3.06	3.29	3.25	4.88*	2.14 ⁺	1.59	
Q22 " 悪い点をとって叱られた時		3.26	2.77	2.67	2.47	3.04	2.91	2.96	2.68	0.22	2.91*	1.03	PM>pm
Q23 " 宿題をやってほめられた時		2.64	2.42	2.61	2.05	2.87	2.12	2.49	2.89	1.44	2.20 ⁺	3.44*	
Q24 " 宿題を忘れて叱られた時		3.28	3.13	3.12	2.64	3.31	2.65	3.18	3.14	0.04	2.35 ⁺	2.33 ⁺	
Q25 " 授業中頑張ってほめられた時		3.13	2.77	2.88	2.25	3.19	2.41	3.24	2.82	1.49	6.12**	2.44 ⁺	PM>P>pm>M>pm
Q26 " 授業中さきわいで叱られた時		3.57	3.06	3.00	2.75	3.28	3.12	3.36	3.07	1.11	4.05**	1.98	PM,M>pm
Q27 " きまりを守ってほめられた時		2.89	2.84	2.64	2.31	3.19	2.41	2.91	2.82	1.62	2.75*	2.56 ⁺	PM>pm
Q28 " きまりを守らず叱られた時		3.34	3.26	3.33	3.00	3.34	2.88	3.42	3.07	0.26	2.73*	1.05	PM>pm
Q29 " 下級生に優しくしほめられた時		3.26	2.94	3.09	2.87	3.38	2.94	3.00	3.11	0.47	2.95*	0.53	PM>M>pm>P
Q30 " 下級生をいじめて叱られた時		3.38	3.23	3.24	3.11	3.41	2.82	3.33	3.21	0.40	4.54**	2.64*	PM>pm>P
Q31 " 掃除を頑張ってほめられた時		3.06	3.13	3.00	2.75	3.37	2.35	3.11	2.86	0.32	3.96**	4.82**	PM>P>pm
Q32 " 掃除をせずに叱られた時		3.19	3.32	3.39	3.02	3.44	3.24	3.33	3.11	0.32	2.16 ⁺	0.74	
Q33 " チリをひろってほめられた時		3.17	3.16	3.03	2.80	3.28	2.65	3.13	3.07	0.01	2.10 ⁺	2.87*	
Q34 " チリもひろわず叱られた時		3.17	2.81	2.85	2.73	3.13	2.41	3.07	2.82	0.07	3.82*	1.25	PM>pm>P
Q35 " いじめもせずほめられた時		2.32	2.52	2.67	2.45	3.03	1.88	2.84	2.54	1.38	3.34*	4.25**	
Q36 " けんかをして叱られた時		3.21	2.97	2.88	2.89	3.22	2.71	3.18	3.04	0.29	2.85*	1.66	PM>pm>P
Q37 兄弟が部屋をきれいにしほめられた時		3.08	2.56	2.76	2.47	3.04	2.41	2.76	2.36	0.51	4.80**	0.19	PM>M>pm
Q38 " 部屋をちらし叱られた時		3.25	2.97	3.18	2.85	3.10	2.94	2.89	2.82	1.38	1.79	0.34	
Q39 " 手伝いをしほめられた時		3.23	3.13	2.79	2.78	3.29	2.59	3.02	2.50	1.33	4.99**	2.25 ⁺	PM>M>pm
Q40 " 手伝いをせず叱られた時		3.04	2.68	2.91	2.65	3.09	2.47	2.73	2.71	0.37	3.35*	0.39	PM>pm>P
Q41 " あいさつをほめられた時		3.04	2.94	2.58	2.60	3.19	2.06	2.82	2.50	1.41	5.06**	4.21**	PM>M>P>pm
Q42 " あいさつを悪いと叱られた時		3.06	3.03	2.94	2.60	3.06	2.53	2.80	2.61	1.60	2.31 ⁺	0.92	
Q43 " 早寝早起きをほめられた時		2.43	2.29	2.48	2.29	2.72	1.82	2.42	2.50	0.00	2.49 ⁺	1.48	
Q44 " 寝起きの時間を叱られた時		2.87	2.55	2.64	2.53	3.07	2.41	2.69	2.57	0.10	3.20*	0.33	PM>M>pm>P
Q45 " 後かたづけをほめられた時		2.79	3.06	2.79	2.47	3.04	2.24	2.78	2.50	1.06	1.90	3.08*	
Q46 " 後かたづけを叱られた時		3.23	2.74	3.15	2.45	3.00	2.59	2.91	2.89	0.16	4.41**	2.10 ⁺	PM>P>pm;M>pm
Q47 " 貯金をほめられた時		2.97	1.94	2.62	2.71	2.89	2.74	2.58	2.47	0.69	3.35*	3.14*	PM>pm>P
Q48 " 無駄使いを叱られた時		3.15	2.29	3.02	2.79	3.23	3.03	3.09	2.87	4.99*	4.50**	2.53 ⁺	PM>pm>P
Q49 " 良い成績をほめられた時		3.46	3.00	3.20	3.18	3.43	3.35	3.33	3.00	0.46	2.35 ⁺	1.31	
Q50 " 悪い成績をしかられた時		2.75	2.18	2.78	2.75	2.91	2.77	2.88	2.51	1.12	1.42	1.39	
Q51 " 勉強をほめられた時		3.01	2.00	2.56	2.54	2.98	2.62	2.97	2.38	1.72	5.30**	1.37	PM>pm>P
Q52 " 勉強をせず叱られた時		3.31	2.47	2.93	2.71	3.30	3.00	3.07	2.75	2.90	6.69**	1.33	PM>M>P>pm

** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$

2. 自己教育力は、M型のもとではP型よりも高い傾向にある。特に女子にその傾向が強い。

(4) 両親の養育類型と自己教育力

以上は、父母別々の分析であったが、ここでは、父母の類型を組み合わせ16類型と児童の自己教育力についてみていく。

両親の類型を組み合わせた16類型の人数は、先の Table 3-4 に示されている。

まず、両親の養育類型と第Ⅰ因子(正のきょうだいモデル)、第Ⅱ因子(友人モデル)、第Ⅲ因子(負のきょうだいモデル)の要因得点それぞれについて検討する。

16類型下での3個の要因得点についての1要因分散分析のF値は、正のきょうだいモデルの要因得点では $F=2.205$, $p<.01$, 友人モデルの得点では $F=2.14$, $p<.01$, 負の兄弟モデルの得点では $F=3.389$, $p<.01$, すべての要因において有意差が見られた。Tukey 法による平均値対の多重比較は、正のきょうだいモデル得点では PM-PM型>pm-pm型, 友人モデル得点では PM-PM型>pm-pm型, 負のきょうだいモデル得点では, PM-PM型>M-M型, PM-PM型>pm-pm型, PM-PM型>pm-P型, P-PM型>pm-pm型という関係が、統計的に有意であった($p<.01$)。本研究での仮説では、PM型の親の下では自己教育力は高く、pm型の親のもとでは自己教育力は低いというものであった。この仮説は、上の分析結果から立証されたと言ってよいだろう。

また、両親の組み合わせで、この他に特徴的なことは、P-P型の下では自己教育力が低く、P-M型のもとでは高い傾向にあることである。ただし後者の P-M型の両親をもつ児童数は3人と少なく、データの安定性は少ない。母親がP型であると、たとえ父親がPM型やM型でも、どの類型と組み合わせてもその児童の自己教育力は、低い傾向がみられた。逆に母親がM型の場合、父親のどの類型でもこどもの自己教育力は高い傾向にあった。このことは、子どもの自己教育力にとって母親の類型が、父親の類型よりも強く関係することがわかる。そして、しつけ・訓練面を主とするP機能より、情緒、愛情面に関わるM機能が重要なことを示唆している。もちろんP、M両機能とも十分高いことが望ましいのではあるが、特に母親の場合、P型よりもM型の下で、子どもの自己教育力は高いようである。

次に、両親の類型とこどもの自己教育力を度数分布の観点から再検討するために、子どもの性別、父親の類型、母親の類型の3要因を独立変数とし、子どもの自己教育力を従属変数として4要因の尤度比検定を行った。

自己教育力得点を高低に2分割する基準値として全体の平均値93.57を用い、94点以上を高群、93点以下を低群として2分した。

Table 9 は、4要因の尤度比検定の結果である。また、Table 10 には、有意な尤度比をもたらしたセルを特定するために、変動源の要因を1次元化し自己教育力とを組み合わせたときの2次元表の残差分析と尤度比を示した。

子どもの性別と自己教育力とは、有意水準に達しなかったが、Table 10-1 に示すように、数字の上では、女子に高群、男子に低群にはいるものが多い傾向がみられる。Table 10-2 の父親のタイプと自己教育力との関係は、1%水準で有意であった($\chi^2=17.814$)。すなわち、父親がPM型のとき自己教育力の高い子どもが多く($p<.01$)、父親がpm型のときには、逆に自己教育力の低い子どもが多かった($p<.01$)。また母親では、Table 10-3 から、母親がPM型のとき自己教育力は高く($p<.01$)、pm型のとき自己教育力は低い($p<.01$)。これは、父親のときと同じ結果である。また、P型の母親のもとでは、自己教育力は低い($p<.05$)。これが、父親と母親の大きな違いである。以上のことから、父親、母親ともに、こどもの自己教育力と関連しているが、母親の類型が父親よりも、自己教育

Table 9 両親の養育態度と子どもの自己教育についての尤度比の分割

変動源	df	χ^2_L	p
性別(A)× 自己教育力(D)	1	2.179	ns.
父のタイプ(B)×(D)	3	17.814	<.01
母のタイプ(C)×(D)	3	24.053	<.01
(A)×(B)×(D)	3	0.968	ns.
(A)×(C)×(D)	3	6.630	<.10
(B)×(C)×(D)	9	3.059	ns.
(A)×(B)×(C)×(D)	7*	9.148	ns.
計	29*	57.746	<.01

* 度数が0の合計欄が2個存在したため本来の自由度よりも2だけ少なくなっている。

 Table 10 各要因と自己教育力についての残差分析 (** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$)

変動源	自己教育力(D)		調整後の残差		尤度比值
	高群(%)	低群(%)			
10.1 性別(A)× 自己教育力(D)					
男子	84(49.1)	87(50.9)	-1.475	1.475	$\chi^2_L=2.179$
女子	91(57.2)	68(42.8)	1.475	-1.475	df=1, ns.
10.2 父のタイプ(B)× 自己教育力(D)					
PM	72(69.2)	32(30.8)	4.000**	-4.000**	$\chi^2_L=17.814$
P	27(50.0)	27(50.0)	-0.488	0.488	df=3, $p<.01$
M	38(48.1)	41(51.9)	-1.007	1.007	
pm	38(40.9)	55(59.1)	-2.775**	2.775**	
10.3 母のタイプ(C)× 自己教育力(D)					
PM	82(68.3)	38(31.7)	4.211**	-4.211**	$\chi^2_L=24.053$
P	19(59.6)	29(40.4)	-2.019*	2.019*	df=3, $p<.01$
M	43(55.1)	35(44.9)	0.425	-0.425	
pm	31(38.3)	53(61.7)	-3.430**	3.430**	
10.4 性別(A)× 父のタイプ(B)× 自己教育力(D)					
男子 { PM	35(68.6)	16(31.4)	2.472*	-2.472*	$\chi^2_L=20.961$
男子 { P	15(50.0)	15(50.0)	-0.349	0.349	df=7, $p<.01$
男子 { M	17(42.5)	23(57.5)	-1.424	1.424	
男子 { pm	17(34.0)	33(66.0)	-2.927**	2.927**	
女子 { PM	37(69.8)	16(30.2)	2.672**	-2.672**	
女子 { P	12(50.0)	12(50.0)	-0.309	0.309	
女子 { M	21(53.8)	18(46.2)	0.109	-0.109	
女子 { pm	21(48.8)	22(51.2)	-0.591	0.591	
10.5 性別(A)× 母のタイプ(C)× 自己教育力(D)					
男子 { PM	34(65.4)	18(34.6)	1.945+	-1.945+	$\chi^2_L=32.809$
男子 { P	16(51.6)	15(48.4)	-0.166	0.166	df=7, $p<.01$
男子 { M	17(51.5)	16(48.5)	-0.184	0.184	
男子 { pm	17(30.9)	38(59.1)	-3.601**	3.601**	
女子 { PM	48(70.6)	20(29.4)	3.256**	-3.256**	
女子 { P	3(17.6)	14(82.4)	-3.001**	3.001**	
女子 { M	26(57.8)	19(42.2)	0.687	-0.687	
女子 { pm	14(48.3)	15(51.7)	-0.537	0.537	

Table 10 (続)

10.6 父(B)×母(C)×自己教育力(D)							
PM	{	PM	56(70.0)	24(30.0)	3.496**	-3.496**	$\chi^2_L=38.808$ $df=15, p<.01$
		P	3(42.9)	4(57.1)	-0.545	0.545	
		M	11(73.3)	4(26.7)	1.613	-1.613	
		pm	2(100.0)	0(0.0)	1.335	-1.335	
P	{	PM	11(68.8)	5(31.2)	1.292	-1.292	
		P	8(38.1)	13(61.9)	-1.417	1.417	
		M	2(66.7)	1(33.3)	0.475	-0.475	
		pm	6(42.9)	8(57.1)	-0.779	0.779	
M	{	PM	10(62.5)	6(37.5)	0.778	-0.778	
		P	4(57.1)	3(42.9)	0.220	-0.220	
		M	20(42.6)	27(57.4)	-1.551	1.551	
		pm	4(44.4)	5(55.6)	-0.523	0.523	
pm	{	PM	5(62.5)	3(37.5)	0.543	-0.543	
		P	4(30.8)	9(69.2)	-1.641	1.641	
		M	10(76.9)	3(23.1)	1.761 ⁺	-1.761 ⁺	
		pm	19(32.2)	40(67.8)	-3.537**	3.537**	

10.7 性別(A)×父(B)×母(C)×自己教育力(D)								
男子	{	PM	PM	27(69.2)	12(30.8)	2.159*	-2.159*	$\chi^2_L=57.746$ $df=29, p<.01$
			P	3(50.0)	3(50.0)	-0.150	0.150	
			M	5(83.3)	1(16.7)	1.501	-1.501	
			pm	0(-)	0(-)	-	-	
		P	PM	4(66.7)	2(33.3)	0.675	-0.675	
			P	8(57.1)	6(42.9)	0.315	-0.315	
			M	0(-)	0(-)	-	-	
			pm	3(30.0)	7(70.0)	-1.482	1.482	
		M	PM	2(33.3)	4(66.7)	-0.976	0.976	
			P	3(60.0)	2(40.0)	0.315	-0.315	
			M	9(39.1)	14(60.9)	-1.385	1.385	
			pm	3(50.0)	3(50.0)	-0.150	0.150	
		pm	PM	1(100.0)	0(0.0)	0.943	-0.943	
			P	2(33.3)	4(66.7)	-0.976	0.976	
			M	3(75.0)	1(25.0)	0.886	-0.886	
			pm	11(28.2)	28(71.8)	-3.308**	3.308**	
女子	{	PM	PM	29(70.7)	12(29.3)	2.427*	-2.427*	
			P	0(0.0)	1(100.0)	-1.064	1.064	
			M	6(75.0)	3(25.0)	0.831	-0.831	
			pm	2(100.0)	0(0.0)	1.335	-1.335	
		P	PM	7(70.0)	3(30.0)	1.092	-1.092	
			P	0(0.0)	7(100.0)	-2.842**	2.842**	
			M	2(66.7)	1(33.3)	0.475	-0.475	
			pm	3(75.0)	1(25.0)	0.886	-0.886	
		M	PM	8(80.0)	2(20.0)	1.735 ⁺	-1.735 ⁺	
			P	1(50.0)	1(50.0)	-0.086	0.086	
			M	11(45.8)	13(54.2)	-0.734	0.734	
			pm	1(33.3)	2(66.7)	-0.687	0.687	
		pm	PM	4(57.1)	3(42.9)	0.220	-0.220	
			P	2(28.6)	5(71.4)	-1.311	1.311	
			M	7(77.8)	2(22.2)	1.508	-1.508	
			pm	8(40.0)	12(60.0)	-1.205	1.205	

力に強く影響しているといえる。

Table 10-4 には、子どもの性別(A)と父の類型(B)と自己教育力(D)との関係を示した。Table 9 の 4 要因の尤度比の分割による $A \times B \times D$ の交互作用は、有意ではなかったが、Table 10-4 の残差分析では、父親がPM型るとき、男子($p < .05$)、女子($p < .01$)とも自己教育力の高いものが多かった。また、pm型るときは、男子に自己教育力の低いものが多かった($p < .01$)。したがって、父親のPM型は男女ともに自己教育力を高めるが、男子の場合、pm型の父親が自己教育力を低めるといえる。

Table 10-5 は、子どもの性別と母親の養育態度と自己教育力との関連である。これも二次元表での尤度比検定では 1 %水準で有意な関係がみられ、母親がPM型るときは、男子($p < .10$)、女子($p < .01$)とも自己教育力の高いものが多い。また母親が、pm型るときは、男子において自己教育力を低める傾向にある。さらに母親が、P型るときは、女子について自己教育力の低いものが多い($p < .01$)。

Table 10-6 は、父親と母親の類型と自己教育力との関連を示したもので、Table 9 の 3 要因交互作用では有意な差はみられなかったが、Table 10-6 の残差分析では 1 %水準で有意な関連がみられた。PM-PM型(前者は父親の類型、後者は母親の類型を表わす。以後この順序で示す)のとき、自己教育力の高い子どもが多く($p < .01$)、pm-pm型るとき、自己教育力の低い子どもが多かった($p < .01$)。また、pm-M型るときは、高群には入るものが多い傾向にあった($p < .10$)。

Table 10-7 は、性別と父母の養育類型と自己教育力との関連を示したものである。この残差分析でも有意なセルが見出された。男子においては、PM-PM型に自己教育力の高いものが多い($p < .01$)、pm-pm型では低いものが多い($p < .01$)。女子においては、PM-PM型($p < .05$)、M-PM型($p < .10$)に自己教育力の高いものが多い、P-P型るとき低いものが多い($p < .01$)。

以上の Table 10 からいえることは、父母ともに、その養育類型が子どもの自己教育力と有意に関連しているが、母親の方がより強く関連していることである。このことは、日頃父親よりも母親の方が子どものしつけ・世話、愛情など、より多く子どもと接触し、子どものことに関わっているからであろう。

養育類型別にみると、PM型に関しては、父母ともに、その子どもの自己教育力は高かった。これは、男子、女子いずれも同じであった。したがって、仮説Ⅰは、検証された。pm型の養育類型は、父母ともに、その子どもの自己教育力を低める方向にはたらいていた。しかし性別でみると、それは、男子のみにいえ、女子においては差がみられなかった。したがって仮説Ⅱは、男子においてのみ検証された。またP型、M型に関していえば、P型の親をもつ子どもの自己教育力は、低い傾向にあった。とくに母親のP型のもとにおいて強く作用し、さらに、女子において自己教育力を低める傾向にあった。M型に関しては、統計的には有意でなかったが、数字の上では父親がM型の場合、自己教育力は低く、母親がM型だと高い方向にあった。とくに男子において、父がM型の場合自己教育力を低める傾向にあった。

全 体 的 考 察

以上に両親の養育態度と自己教育力との関係について、様々な検討を試みてきたが、これらに共通した結果から全体的な考察を試みる。

(1) 父親の養育態度と自己教育力の関係

父親の PM型のもとでは、その児童の自己教育力は男女ともに高かった。したがって、仮説Ⅰは父親において検証されたことになる。

pm型のもとでの児童の自己教育力は、男子で有意に低かった。これは、仮説Ⅱが男子においてのみ検証されたことになる。女子においては、仮説Ⅱは検証されなかったが、その理由としては、まず、親の性別とこどもの性別との関連が考えられる。まず、男子について考察しよう。男の子にとって父親は、最も身近な大人の同性のモデルである。男の子は、父親を同性のモデルとして学習し、成長する。したがって息子の目に映った父親像が、しつけや訓練面で子どもをあまりかまわず、また愛情や情緒面にも不十分な pm型であれば、父親をモデルとして学習する場合、自己をよりよくしようとする意志や態度の形成が弱く、自己教育力が低いと考えられる。女子の場合は、大人の同性のモデルは母親であろうから、父親が pm型であっても、女子では、自己教育力との関連が弱いのであろう。

P型の父親をもつ児童は、男女とも自己教育力が低かった。これは、特に女子にその傾向が強かった。またM型の父親のもとでは、女子において自己教育力は高い方向に作用していたが、男子では低い方向へはたらいた。これは、M型の親がややもすると過保護的になるため、こどもは親まかせで、自分のことをひとりで対処しようとする意志を欠きやすいとも考えられる。したがって仮説Ⅲは検証されたが、仮説Ⅳは女子においてのみ検証されたことになる。

(2) 母親の養育類型と自己教育力の関係

PM型の母親のもとでは、男女ともに自己教育力を高めた。これも父親の場合と同様に仮説Ⅰを検証したことになる。

pm型のもとでは、男子においてのみ自己教育力を低めた。従って、仮説Ⅱは男子のみに検証された。親からの精神的な独立を考えたとき、小学5、6年生(11歳～12歳)においては、男子より女子の方が精神面では早く成長する。このことが、女子において、自己教育力と親の養育類型との関連が少ない1つの要因かもしれない。しかし、両親の養育類型の組み合わせをもっと詳しく検討してみる必要がある。

次に、P型では、男女ともにこどもの自己教育力は低かった。とくに女子においてその傾向が強い。P型は、その過度なタイプは権威的できびしく、強制的あるいは支配的になりやすい。従ってそのような養育環境の中で育てば、子どもは消極的になりがちで自己をよりよくしようとする意志を低めると思われる。特に女子により強い関連がみられたことは、きびしい母親のもとでは、男子より女子の方に自己教育力の低下をきたすことである。これは、同性としてこどもの側により強い反発があることも考えられる。またM型は、男女ともに自己教育力が高かったが、統計的な有意な水準までには達しなかった。したがって、本研究での仮説Ⅲは検証されたが、仮説Ⅳは検証されなかった。仮説Ⅳは「M型のもとでは、自己教育力は高いだろう」ということであったが、母親のM型の場合、前述の如く過保護的になりやすく、そのために返って子どもの独立心や自律心の低下を招きやすいであろう。ただしP型とM型とを比較するならM型が極めて自己教育力が高いのである。

(3) 両親の養育態度と自己教育力の関係

両親の養育類型の組み合わせは、父×母で16通りである。ここでも仮説の如くPM-PM型(前者が父の類型、後者が母の類型)の養育態度の父母をもつ児童の自己教育力は高かった。これは、男女ともにいえた。従って仮説Ⅰは検証された。また pm-pm型は、男女ともに自己教育力が低かった。ので、仮説Ⅱも検証された。さらに、父親母親のいずれかがPM型であると、他方が仮に pm型でも自己教育力は高い方向にはたらいた。このことは、逆に言えば、どちらか一方の養育態度がPM型

(しつけ面にも愛情面にも十分である)であれば効果が高いといえる。

他の組み合わせで特徴的なことは、M-M型の下ではこどもの自己教育力が低いことであった。このことは、仮説Ⅳに反したものであった。M-M型という厳しさの足りない両親のもとでは、愛情の強さが逆に、干渉しすぎたり過保護になったりして、こどもが親への依存性を高め、積極性を欠くものとなることが考えられる。このことは、男子においてより強い傾向がみられた。P-P型の下の子どもは、自己教育力が低い傾向がみられた。性別では、男子が女子よりいくらか高い傾向にある。P-P型という厳しい親の下では、「叱られた」場合、P-P型の下で育った子どもはそうした罰に敏感で、自戒的な自己教育力は高くなるのかもしれない。女子においてはP-P型の下では、自己教育力は極めて低い。これは、男子と違い女子は親和的欲求が高いため、その反動として厳格な親への反発や反抗が現われ、自己教育力に結びつかないのであろう。

以上に見てきたように、仮説Ⅰ～Ⅳは、男女という性差をぬきにして考えるとほぼ検証できたが、性別をも考慮すると仮説とは異なる面も存在することが見い出された。父母とこどもの性別との交互作用の重要性が示唆される。

要 約

本研究は、小学5、6年生330名を被調査者として、両親のP-M養育類型が、子どもの自己教育力におよぼす効果を検討したものである。ここでは、自己教育力は、きょうだいや友人という他人が賞賛、叱責される場面(32項目)に遭遇したとき、他人の行動との比較参照から自己の在り方を学ぶかどうかということで操作的に定義された。児童の評定による父母それぞれのP、M得点は、全体の平均値を基に得点ごとに高低に2分割され、その組み合わせから養育類型は、父母それぞれ、PM型、P型、M型、pm型の4類型が構成された。その結果、以下のことが見いだされた。

1. PM型の父親、母親の下には、男女とも自己教育力の高い子どもが多かった。
2. pm型の父親、母親の下には、男子に自己教育力の低い子どもが多かった。
3. P型の父親、母親の下には、女子に自己教育力の低い子どもが多かった。
4. M型の父親の下には、女子に自己教育力の高い子どもが多かった。
5. M型の母親の下には、男子に自己教育力の高い子どもが多い傾向にあった。

〔付記〕

本研究は、1989年10月28日に琉球大学において、篠原が、「両親のP-M養育類型と児童の自己教育力について」と題して、九州心理学会第50回大会(九州心理学会第50回大会発表論文集、11頁)で発表したものに、1989年度科学研究費(総合研究A、課題番号013-01-013、代表三隅二不二)の援助をうけて再分析後、加筆修正したものである。

引用文献

- 新井郁男 1985 自己教育力を育てる小学校とは, 河野重男編「小学校自己教育力育成の手引き」, 第2章, 19-26頁, 明治図書.
- Edgar Faure, et al 1973 *Learning to be*. UNESCO, Ontario Institute for Studies in Education, 国立教育研究所フォーラム報告書検討委員会訳 1975 「未来の学習」, 第一法規.
- 古川綾子, 三隅二不二, 篠原弘章 1969 親のPM式リーダーシップ測定(1) 日本心理学会第23回大会発表論文集, 293.
- 古川綾子, 篠原弘章 1970 親子関係—因子論的研究, 日本グループダイナミクス学会第18回大会発表.
- 梶田毅一 1985 自己教育への教育, 明治図書.
- 小島秀夫 1970 親の行動インベントリ(PBI)の検討, 金沢大学教育学部紀要, 16, 129-144.
- 小此木啓吾 1987 北尾倫彦編「自己教育力を考える」, pp.188-189, 図書文化.
- Schaefer, E. S., 1959 A circumplex model for maternal behavior, *J. of Abnorm. Soc. Psychol.*, 59, 226-235.
- Schaefer, E. S., 1965 Children's Reports of Parental Behavior Inventory, *Child Development*, 36, 413-424.
- 瀬川栄志 1985 自己教育力を育てる国語科研究法, 光文書院.
- 篠原弘章, 福山久子 1987 両親の養育態度が児童の達成動機と学校不安に及ぼす影響について, 熊本大学教育学部紀要, 人文科学, 36, 257-276.
- 篠原弘章, 森田真美 1989 児童の認知にもとづく両親の養育行動とパワーについて, 熊本大学教育実践研究, 人文科学, 6, 113-131.
- 篠原弘章 1990 両親の養育態度と児童の自己教育力について—賞賛・叱責場面について, 九州心理学会51回発表論文集, 63頁
- 三隅二不二 1966 新しいリーダーシップ 集団指導の行動科学, ダイヤモンド社.
- 文部省 1978 小学校学習指導書 道徳編.
- 文部省 1983 文部省中央教育審議会 「教育内容等小委員会審議経過報告」
- 柳沢昌一 1987 近代日本における自己教育概念の形成, 社会教育基礎理論研究会編著, 「自己教育の思想史」, 第2章, 19-77頁, 雄松堂出版.